

元号一覧(由来と改元理由)まとめ

飛鳥時代

元号	期間	改元の理由と由来	主な出来事
たいか 大化 こうぎよく (皇極天皇)	645年 6月19日~ 650年	なかのおおえのおうじ なかとみのかまたり 中大兄皇子と中臣鎌足が、天皇を中心とする政治を目指して、 力を持ちすぎた豪族の蘇我氏を倒した(乙巳の変)。それにより新政府が誕生し、元号を定めることになった。 初めて定められた元号が「大化」。 「書経」の「ゆえに我大いに我が友邦の君を化誘(正しい道へ教えて導くこと)す」がもとになったという説があるが、確かではない。	たいかのかいしん 大化改新 (645年) 改新の詔(646年)
はくち 白雉 こうとく (孝徳天皇)	650年 2月15日~ 654年	白雉とは、白いキジ(鳥の種類)のこと。穴戸(今の山口県)の国司(地方の国のリーダー的な役職の人のこと)が白いキジを献上(プレゼントすること)したときに、「これはとてもめでたい」と「白雉」に改元をした。白雉ではなく、白鳳という説もL/ある。 白雉のあと、次の朱鳥まで32年間元号がなかった期間がある。理由は不明。	
しゅちよう 朱鳥 てんむ (天武天皇)	686年 7月20日~	天武天皇が病気にかかってしまい、元号を改めれば病気が治るのではと考えられた。 しかし約1ヶ月の686年10月1日(朱鳥元年9月9日)に、天武天皇は亡くなってしまう。 朱鳥は中国の「四神」のひとつ。「良いことが起こる前ぶれ」を表す鳥だからという説がある。 朱鳥は1ヶ月間だけで、このあと大宝が定められるまで14年間元号が無かった。理由は不明。	
たいほう 大宝 もんむ (文武天皇)	701年 3月21日~ 704年	つしま 対馬から朝廷に金が献上(プレゼント)され、「金が採れた!」ということをお祝いするため改元された。 しかし、実際は対馬で採れたのではなく、朝鮮から持ち帰った金を対馬で採れたとごまかしたという説もある。 「たいほう」と読むほかに、「だいほう」と読む場合もある。	たいほうりつりよう 大宝律令 (701年)
きやううん 慶雲 (文武天皇)	704年 5月10日~ 708年	きやううん 慶雲とは、おめでたいことが起こる前兆を表す雲のこと。この雲が現れたので、改元した。 慶雲を発見した人は大出世した。 改元に合わせて、神馬(神様が乗る馬のこと)を朝廷に献上(プレゼントすること)した郡は、税金が免除(払わなくていいということ)された。	



奈良時代

元号	期間	改元の理由と由来	主な出来事
わどう 和銅 (げんめい 元明天皇)	708年 1月11日~ 715年	むさし 武蔵(今の東京・埼玉・神奈川)が朝廷に銅を ^{けんじょう} 献上(プレゼントすること)したので、 ^{かへい} 貨幣を作りたいと考えていた天皇が喜んで改元した。 このとき作られた貨幣が「和同開珎」。この「和同」は、「 ^{りよしんじゅう} 呂氏春秋」にある一文の「 ^{てんちわどう} 天地和同」が由来という説がある。「和同」とは、人々が納得するという意味がある。	わどうかいちん 和同開珎 (708年) せんと 平城京へ遷都 (710年) こじき 古事記(712年) ふどきへんさん 風土記編纂の命令 (713年)
れいき 靈龜 (げんしょう 元正天皇)	715年 9月2日~ 717年	朝廷に ^{けんじょう} 靈龜が献上(プレゼントすること)されたので改元した。 靈龜とは、中国の神話に出てくる神の力をもった亀のこと。 実際に献上された亀は長さ21センチで、左目は白、右目は赤のめずらしい亀だったといわれている。	
ようろう 養老 (げんしょう 元正天皇)	717年 11月 17日~ 724年	元正天皇が出かけた途中、 ^{ようろうさんち たどやま} 養老山地の多度山に「若返りの泉」を発見したので喜んで改元した。 改元するときには、罪をおかした人の刑罰を少なくしてあげたり、お年寄りに位やお祝いの品を与えたり、病気の人を助けたり税をなくしてあげるようにした。	にほんしよき 日本書紀(720年) さんぜいっしんほう 三世一身法 (723年)
じんぎ 神龜 (しょうむ 聖武天皇)	724年 2月4日~ 729年	聖武天皇が天皇に即位したため改元。 由来は、改元する前の年に ^{けんじょう} 献上(プレゼントすること)された亀の両眼が赤く、姿が白かったことから、神龜になった。 神龜とは、中国の占いで「良いことが起こる」ことを表す亀のひとつ。	ながやおう 長屋王の変 (729年)
天平 (聖武天皇)	729年 8月5日~ 749年	貴族の藤原麻呂が、亀を献上(プレゼントすること)したことをキッカケに改元。 亀の背中には「天皇の世の中は貴く、百年平和に続く」と書かれていた、その文から、天皇の「天」、平和の「平」が元号の由来と言われている。	ふじわらひろつぐ 藤原広嗣の らん 乱(740年) こんでんえいねんしさ 墾田永年私 (743年) だいぶつこんりゅう 大仏造立 みことのり の詔(743年) てんぴょうじしん 天平地震 (745年) 天平文化が栄える



てんぴょうかん 天 平 感 (聖武天皇)	749 年 4 月 14 日～	3 ヶ月の期間しかなかった元号。 初めての 4 文字。 大仏を作りたいと考えていた聖武天皇だが、材料である金が足りなくて困っていたところに、陸奥(青森・岩手・宮城・福島・秋田)から黄金が献上(プレゼントすること)されたのを喜んで改元。 「天平」に「感宝」を加えて作った元号。	しょうむてんのう 聖 武 天 皇 が じょうい 讓 位 (749 年)
てんぴょうしょう 天 平 勝 こうけん (孝 謙 天 皇)	749 年 7 月 2 日～ 757 年	聖武天皇が讓位(天皇の位を譲ること)して、聖武天皇の娘であるあべないしんのう阿部内親王が即位して孝謙天皇になったため改元した。 天平→天平感宝→天平勝宝と、同じ年に 2 回改元したのは日本の歴史上このとき以外にはない。「勝宝」の由来は不明。	だいぶつかいげんく 大 仏 開 眼 供 (752 年) がんじん 鑑 真 が 来 日 (753 年)
てんぴょうほうし 天 平 宝 字 じゆんにん (淳 仁 天 皇)	757 年 8 月 18 日～ 765 年	聖武天皇が亡くなり、しゅうきほうよう周忌法要の最後の日に、かいこ蚕 が産んだ卵が「天皇の治める世の中は、100 年あんたい安泰(安全で、危険がないこと)だろう」と読める形になっていたものが献上(プレゼントすること)されていたのがキッカケで改元された。 改元のときには、罪をおかしたひとの刑罰を少なくしたり、国民の税を減らしたりした。	ふじわらのなかまる 藤 原 仲 麻 呂 の 乱 (764 年)
てんぴょうじん 天 平 神 護 しょうとく (称 徳 天 皇)	765 年 1 月 7 日～ 767 年	孝謙天皇が、淳仁天皇を廃位(天皇ではなくさせること)させて、また称徳天皇として即位したのをキッカケに改元したと言われているが、詳しいことは分からない。 ふじわらのなかまる藤原仲麻呂の乱を無事におさえることが出来たのは「神様が護ってくれたから」という意味を込めて「神護」が使われたと言われている。	
じんごけいいうん 神 護 景 雲 (称徳天皇)	767 年 8 月 16 日～ 770 年	おめでたいことが起こる前兆を表すという雲「景雲」が発見されたのを喜んで改元。 雲は三河(愛知)と伊勢(三重)で発見され、同じ頃に天皇自身も目撃していた。 改元のときには、罪をおかしたひとの刑罰をすくなくしたり、国民のぜいを減らしたりした。	
ほうき 宝 亀 こうにん (光 仁 天 皇)	770 年 10 月 1 日～ 781 年	光仁天皇が即位するときに、白い亀が献上(プレゼントすること)されたことから「宝亀」と改元された。 改元のときには、罪をおかしたひとの刑罰を少なくしたり、朝廷に仕えていた役人に新しい位を与えたり、出家した人にお祝いの品物をあげたり、お年寄りや生活に困っているひとを援助した。 ここからはまた 2 文字の元号が使われるようになった。	宝亀の乱(780 年)



てんおう 天 応 (光仁 天皇)	781年 1月1 日～ 782年	いせじんぐう 伊勢神宮の宮殿に、美しい雲が現れたことを「良いことが起こりそう」考 えて改元した。 1月1日に改元されたのはこの元号のみ。 ほかには、781年4月に桓武天皇が即位するために改元していたという説 もある。元号の由来は「易 ^{えききょう} 経」の一文「天に従いて人に応ず」がもとな っているという説がある。	
------------------------	---------------------------	---	--

平安時代

元号	期間	改元の理由と由来	主な出来事
えんりやく 延 暦 かんむ (桓武天皇)	782年 8月19 日～ 806年	桓武天皇が即位したため改元。 「群書治要」の「民徳政を詠ずれば、即ち期を延ばし歴(暦)を過ぐ」が由 来という説がある。 滋賀県にある延暦寺はこの元号からつけられた名前。	ながおかきょう 長岡京へ せんと 遷都 (784年) へいあんきょう 平安京へ遷 都 (794年) さかのうえたむらまる 坂上田村麻呂 が せいいたいしやうぐん 征夷大將軍 になる(797年) しよくにほんき 続日本紀(797 年) てんだいしゅう 天台宗 さいちやう (最澄)805年 しんごんしゅう 真言宗 くわかい (空海)806年
だいたい 大 同 へいぜい (平城天 皇)	806年 5月18 日～ 810年	平城天皇が即位したため改元。 「書経」の「これ大同という」からという説がある。大同とは、目的のために多 くのがひとつにまとまる」という意味がある。 改元の時には、罪をおかした人の刑罰を軽くしたり、僧に位を与えたり、税を 免除するなどされた。	平城太上天皇の変 くすこ (薬子の变)(810 年)
こうにん 弘 仁 さが (嵯峨天皇)	810年 9月19 日～ 824年	嵯峨天皇が即位し、さらに豊作(農作物がたくさん獲れること)があったた め改元。 810年に薬子の变があったため、嵯峨天皇が即位してすぐの改元はでき ず、即位の1年半後に行われた。 らいきせいぎ かんこうじんせい 「礼記正義」の「寛弘仁静の化を行う」からという説がある。	弘仁地震(818年)



てんちよう 天長 (じゆんな 淳和天皇)	824年 1月5日 ~ 834年	淳和天皇が即位したためと考えられているが、確かではない。 「老子」の「天長く地久し」からと言われている。	
じょうわ 承和 (にんみょう 仁明天皇)	834年 1月3日 ~ 848年	仁明天皇が即位したため改元。「芸文類聚」の「将に太和を承らんとす」から という説がある。	承和の変(842年) 最後の遣唐使(838年)
かじょう 嘉祥 (にんみょう 仁明天皇)	848年 6月13日 ~851年	豊後(現在の大分県)で白い亀が見つかり、おめでたいこととして改元。 改元の時には、罪をおかした人の刑罰を軽くし、税を減らすなどされた。 また、はじめて伊勢神宮で改元したことを神様に報告する儀式が行われた。	ちょうねんたいほう 長年大宝 発行(848年)
にんじゅ 仁寿 もんとく (文徳天皇)	851年 4月28日 ~ 854年	文徳天皇の即位と、美作・備前(現在の岡山県)、摂津(現在の大阪・兵庫)から白い亀が献上されたこと、石見(現在の島根県)から甘露(すばらしい天皇のもとへ、天から降ってくるとわれている露のこと)が献上されたことをおめでたいとして改元。 「漢書」の「徳を行えばすなわち民仁寿たり」からという説がある。 改元の時には、罪をおかした人の刑罰を軽くし、献上した国の税を減らしたり免除したりした。	
さいこう 斉衡 (文徳天皇)	854年 11月30日 ~ 857年	854年に、石見(現在の島根県)で醴泉(甘い味がする泉のこと。平和な時代だけに出ると言われている)が出たことを、おめでたいこととして改元した。 改元の時には、罪を犯した人の刑罰を軽くして、醴泉が出た郡では税を免除したり、減らしたりした。また、役人に位を与えた。 「周礼」の「曲礼に君が器を執るは斉衡なり」がもとになったと言われている。 ※斉衡とは、物の釣り合いをとるという意味。	
てんあん 天安 (文徳天皇)	857年 2月21日 ~ 859年	美作(現在の岡山県)から白い鹿が朝廷に献上(プレゼントされること)されて、常陸(現在の茨城県)から連理の木(2本の木がくっついて1本になったもの)が献上されたので、文徳天皇がおめでたいこととして改元した。 改元した時には、全国の税を免除したり、減らしたりした。また役人に位を与えた。また、お年寄りや僧に穀物を与えた。 「礼記」の「彼の国安くして天下安し」がもとになっていると言われている。	
じょうがん 貞観 せいわ (清和天皇)	859年 4月15日 ~ 877年	清和天皇が即位したことにより改元。 「易経」の「天地の道は貞にして観すものなり」がもとになっているという説がある。	貞観地震(869年) 貞観客式(法令) 応天門の変(866年) 清和源氏登場(873年)



<p>かんぎょう 元慶 (陽成天皇)</p>	<p>877年 4月16日～ 885年</p>	<p>陽成天皇が即位した時に、但馬（現在の兵庫県）から白いキジが献上（プレゼント）され、さらに尾張（現在の愛知県）から2本の木がくっついて1本になったもの（連理の木と呼ばれる）が献上され、さらに備後（現在の広島県）からは白い鹿が献上されたのをおめでたいとして改元した。改元する時には、罪をおかした人の刑罰を軽くし、役人に位を与えたり、献上した国では税が減らされたり免除されるなどした。 「易経」の「元い吉とは、上にありておおいに慶あるなり」がもとになっているという説がある。</p>	<p>元慶官田の設置 (879年)</p>
<p>にんな 仁和 (光孝天皇)</p>	<p>885年 2月21日～ 889年</p>	<p>光孝天皇が即位して、2年目になったときに改元の詔（改元しなさいという天皇の命令）が出たため。 「礼記」の「歌楽は仁の和なり」がもとになっているという説がある。</p>	<p>仁和地震(887年)</p>
<p>かんべい 寛平 (宇多天皇)</p>	<p>889年 4月27日～ 898年</p>	<p>本当なら宇多天皇が即位したときに改元されるのが普通だったが、宇多天皇が太政大臣の藤原基経とうまくいかず、政治が不安定だったので改元が遅くなったと言われている。 「漢書」の「寛大の政行われ、和平の気通ず」がもとになっているという説がある。</p>	<p>寛平の治 桓武平氏登場(889年) 遣唐使廃止(894年)</p>
<p>しょうたい 昌泰 (醍醐天皇)</p>	<p>898年 4月26日～ 901年</p>	<p>醍醐天皇が即位したため改元した。 「詩経」の「寿なるものあいともにもちいられん。爾をして昌にして大ならしむ」がもとになっているという説がある。 ※大と泰はどちらも「大きい」という意味を持っている。また、改元された日は4月16日や、8月16日だという説もある。醍醐天皇が即位したことで、宇多天皇は上皇になったが、899年に出家したので法皇になったが、これが日本史上初の法皇。</p>	
<p>えんぎ 延喜 (醍醐天皇)</p>	<p>901年 7月15日～ 923年</p>	<p>901年は辛酉の年だったので、(60年に一度くる「辛酉」には革命が起こるといふ言い伝えがある)革命を避けるために改元した。 中国の伝説とされている「禹」という王が、天からさずけられた宝玉に刻まれていた「禹が玄珪をたまひ、文に延喜という」という一文がもとになっているという記録がある。</p>	<p>延喜・天曆の治 延喜の 荘園整理令 (902年) 古今和歌集の へんさん 編纂 (905年) 延喜通宝の発行 (907年)</p>
<p>えんちよう 延長 (醍醐天皇)</p>	<p>923年 4月11日～ 931年</p>	<p>日照り続きで作物が不作になったり、疫病が流行ったりしたので、改善された。 醍醐天皇が、皇太子が長く生きるように、長寿を願って「延長」と決めたと言われている。</p>	<p>せいりようでん 清涼殿に落雷(930年)</p>



じょうへい 承平 すざく (朱雀天皇)	931年 4月26日 ~ 938年	「しょうへい」と読むこともある。 資料はないが、朱雀天皇が即位したため改元されたと考えられている。 かんじょ るいせい ふごうりみん 漢書の「今累世平を承け、豪富吏民はしうきよまんにして、貧苦いよ いよ困しむ(平和な世の中を受け継いで、お金持ちや役人は豊かだが、貧しい民はますます困っているという意味)」がもとになっていると言われている。	たいらのまさかど 平将門の 乱(935年) ときにつき 土佐日記
てんぎょう 天慶 (朱雀天皇)	938年 5月22日 ~ 947年	地震や戦争による世の中の乱れが起こったので改元した。 9世紀から10世紀になると武士が登場するようになり、土地をめぐる争いなどが起きるようになっていた。 かんじょ てんし きよく た じょうかん きんせい 「漢書」の「ただ天子中和の極を建て、条貫を兼ねすべて、金声 にしてこれを玉振し、もって順じて天の慶を成して、万世の基を垂る」 がもとになっている。	ふじわらのすみとも 藤原純友 の乱(939年)
てんりやく 天曆 (村上天皇)	947年 4月22日 ~ 957年	村上天皇が即位したため改元(即位の翌年の改元)地震が起きたため改元されたという説もある。 村上天皇が「天曆」に決めたと言われている。 ろんご ちんかまい つと う 「論語」の「朕寡昧なるをもって夙に天曆を承く」がもとになっている。	
てんとく 天徳 (村上天皇)	957年 10月 27日 ~ 961年	日照り続きにより、作物の不作が起きたため改元した。 らいき ひりゅうてん くらい 「礼記」の「飛竜天にありとは、すなわち天徳に位するなり」がもとになっている。	けんげんたいほう 乾元大宝発 行(958年)
おうわ 応和 (村上天皇)	961年 2月16日 ~ 964年	だいいり 平安京の内裏(天皇が住んでいるところのこと)で火事が起きたためと、 しんゆう 961年は辛酉の年(革命が起きると言われている年のこと。60年に一度ある)だったため、改元した。 しんじょ がが じんくんまさ しゅうせい 「晋書」の「岷々たる仁君応に秀生に和すべし」がもとになっている。	
こうほう 康保 (村上天皇)	964年 7月10日 ~ 968年	964年は甲子の年(革命が起こると言われている年)のためと、日照りが かつし 続いて作物の不作が起きたため改元した。 しよきょう あまね いにしえ せんてつ 「書経」の「別く古の先哲王に求め聞き、用て民を康保せよ」がもとになっている。	
あんわ 安和 れいぜい (冷泉天皇)	968年 8月13日 ~ 970年	「あんな」と読む場合もある。 冷泉天皇が即位したため改元。 らいき こ もつ 「礼記」の「是の故に治世の音、安くして以て楽しむは、その政和げ ばなり」がもとになっていると言われている。	あんな 安和の変(969年)
てんろく 天禄 えんゆう (円融天皇)	970年 3月25日 ~ 974年	円融天皇が即位したため改元。 改元の時には、罪を犯した人の刑罰を軽くしたり、民の税を免除したり減らしたりした。またお年寄りや尼(出家した女性のこと)に穀物を与えた。 あま こくもつ 「書経」の「四海困窮せば、天禄は永く終えん」がもとになっていると言われている。※天禄とは、天からの恵みということ。	
てんえん 天延 (円融天皇)	974年 12月	地震が起こったため改元した。 改元の時には、罪を犯した人の刑罰を軽くしたり、民の税を免除したり減ら	



	20日～ 976年	したりした。またお年寄りに穀物を与えた。 げいもんるいじゅう こうえい えいえん 「芸文類聚」の「皇殪没すといえども、天祿は永延なり※」がもと になっていると言われている。 ※「たとえ、先代の皇帝が亡くなくても、天からの恵みは永遠」という意味。	
じょうげん 貞元 (円融天皇)	976年 7月13 日～ 978年	地震が起きたため改元した。 だいいり 平安京の内裏(天皇が住んでいるところ)で火事があったため改元したと いう説もある。 もんぜん ふかん ていきつ げんぶ 「文選」の「巫咸をして夢を占わしむ、すなわち貞吉の元符なり※」 がもとになっているという説がある。 ※「夢を占わせたら、とてもめでたいことが起こる前触れだった」という意 味。	
てんげん 天元 (円融天皇)	978年 11月 29日～ 983年	災害が起こったため、改元した。 改元の時には、罪を犯した人の刑罰を軽くしたり、お年寄りに穀物を支給し た。 改元された日付にはいくつか説がある。 しき すいほん じゅんしょう 「史記」の「天元※に推本し、その意を順承す」がもとになっていると 言われている。 ※天元とは、いろいろなものの元になっているもの、という意味。	
えいかん 永観 (円融天皇)	983年 4月15 日～ 985年	日照りが続いて、作物の不作が続いたため改元した。 改元の時には、罪を犯した人の刑罰を軽くしたり、お年寄りや僧や尼に食べ 物を支給した。 しよきょう ちん 「書経」の「万年それ永く朕が子を観て徳に懐かしめん」がもとになって いると言われている。	
かんわ 寛和 かざん (花山天皇)	985年 4月27 日～ 987年	「かな」と読む場合もある。 花山天皇が即位したため改元した。 しよきょう しゅうよう 「書経」の「寛にして制あり。従容としてもって和せよ」がもとになって いると言われている。	
えいえん 永延 いちじょう (一条天 皇)	987年 4月5 日～ 989年	一条天皇が即位したため改元した。 かんじよ もと えいせいそ 「漢書」の「陛下本としてこれを始め、もって永世祚を延ぶ、また優なら ずや」がもとになっていると言われている。	
えいそ 永祚 (一条天皇)	989年 8月8 日～ 990年	ハレー彗星が現れたり、地震が起こったので、「災い」を取り払うために改 元。 この頃の彗星は「ほうき星」と呼ばれて、大な災害が起こる前触れとして不 吉とされていた。 彗星を理由に改元したのはこれが初めて。 「詩経」の「君子は万年、永く祚胤を錫う」が由来という説がある。	
しょうりやく 正暦 (一条天皇)	990年 11月7 日～ 995年	台風や、洪水が起こったので改元した。 改元の時には、罪を犯した人の刑罰を軽くしたり、お年寄りや僧や尼に穀物 を支給した。	



		「史記」の「すこぶる ^{こよみ} 曆、服色を正すのことを言う」がもとになっていると言われている。	
ちょうとく 長徳 (一条天皇)	995年 2月22日~ 999年	疫病が流行したため改元。 改元しても疫病はおさまるところか全国まで広がってしまったので、「長毒」だと皮肉されることがあった。 中国の学者である楊雄の書いた文章「唐虞 ^{とうぐ} 長徳にして、四海永延壊す」から。 唐虞とは、中国の伝説上の聖天子である陶唐氏と有虞氏をあわせて呼ぶ時の呼び方。	長徳の変
ちょうほう 長保 (一条天皇)	999年 1月13日~ 1004年	長徳に流行した疫 ^{えきびょう} 病や、日照りが続いて不作(作物が育たないこと)のために改元。「国語」の「施 ^{ほどこ} し偏 ^{あまね} くして民阜 ^{あつ} からは、すなわちもって長く民を保つべし」と、「易 ^{えききょう} 経」から引用している(易経のどの部分かは不明)。「全ての人に恵みを与えることができれば、長く人民を治めることができる」という意味。 改元のときには、罪をおかした人の刑罰が軽くされた。	藤原定子が皇后に、藤原彰子が中宮になる。(初の(一帝二后)(1000年)枕草子(1001年))
かんこう 寛弘 (一条天皇)	1004年7月20日~ 1013年	地震によって改元。「漢書」の寛弘にして下に尽くせることは、恭 ^{きょうけん} 儉よりいでたり。」から引用。寛弘とは、心や度量が広いこと。恭儉とは、自分 ^{つつ} は慎ましく、人にはうやうやしくすること。 はじめ、「寛 ^{かん} 仁 ^{にん} 」に決定されたが、一条天皇の本名である「懐 ^{やすひと} 仁」と「仁」の字が被ってしまうので変えられた。	平安京内裏が火事により焼けて無くなる(1005年頃)紫式部「源氏物語」(1008年)
ちょうわ 長和 (さんじょうてんの 三條天皇)	1013年12月25日~ 1017年	三条天皇の即位にあわせて改元。 「礼記」の「君臣正しく、父子親しく、長幼 ^{しこう} 和し、而して後に礼立つ」から引用。 意味は「身分や年齢をわきまえることで、初めて礼儀が成り立つ」ということ。	藤原道長が後一条天皇の摂政になる(1016年)
かんにん 寛仁 (ごいちじょうてん 後一条天皇)	1017年4月23日~ 1021年	後一条天皇の即位にあわせて改元。 「会稽記」「書 ^{しよきやう} 経」のほか、「漢書」の「寛仁愛人、意豁 ^{かつじよなり} 如也」から。 意味は「寛仁(心が広いこと)にして人を愛し、心が大きく小さなことにとらわれない」ということ。	藤原道長がもちづき「望月の歌」を詠む(1018年)
じあん 治安 (後一条天皇)	1021年2月2日~ 1024年	干支の中には「辛酉 ^{しんゆう} 」という年があり、辛酉には革命が起こって朝廷が倒されると信じられていた。(詳しい解説は最後の「参考」を読もう) そのため、辛酉になる年には改元して革命を避けようとされていた。 1021年も辛酉だったので、改元して治安になった。 「漢書」の「囚 ^{かんじよ} りて治安の策を陳べ、試みに ^よ 詳 ^{つまび} らかにこれを択ぶ」から選ばれた。 改元の時には、罪を犯した人の罰が軽くされ、お年寄りには穀物が贈られた	



<p>まんじゅ 万寿 (後一条天皇)</p>	<p>1024 年7月 13日~ 1028 年</p>	<p>治安の時と同じように、こんどは「甲子」の年になるため、革命を避けようと改元された。 「詩経」の「楽しきかな君子、万寿かぎりなからん」から。 改元の時には、罪を犯した人の罰が軽くされ、お年寄りには食べ物が増らされた。</p>	<p>藤原道長が亡くなる (1027年) 平忠常の乱(1028年6月)</p>
<p>ちょうげん 長元 (後一条天皇)</p>	<p>1028 年7月 25日~ 1037 年</p>	<p>疫病が流行ったり、干ばつ(雨が降らずに、農作物が取れなくなってしまうこと)があったので改元した。 関白をしていた藤原頼通が改元をすすめたと言われている。 「六韜」の「天の天たる、元の天たるや長し」から。</p>	
<p>ちょうりやく 長暦 ごすざく (後朱雀天皇)</p>	<p>1037 年4月 21日 ~1040 年</p>	<p>後朱雀天皇が即位したため改元された。 「春秋」から元号は選ばれたと言われているが、どこの部分からは分かっていない。</p>	
<p>ちょうきゅう 長久 (後朱雀天皇)</p>	<p>1040 年11月 10日~ 1044 年</p>	<p>1040年に大地震が起こったこと、平安京にある天皇のおやしきが火事で燃えてしまったため改元された。 「老子」の「天長く地久し」から。</p>	<p>長久の しょうえんせいりれい 荘園整理令 (1040年)</p>
<p>かんとく 寛徳 (後朱雀天皇)</p>	<p>1044 年11月 24日 ~1046 年</p>	<p>疫病が流行したこと、日照りが続いて農作物の不作が起こったため改元した。 「後漢書」の「海内歓欣し、人寛徳を懐く」がもとになっている。</p>	<p>寛徳の荘園整理令 (1045年)</p>
<p>えいしょう 永承 ごれいぜい (後冷泉天皇)</p>	<p>1046 年4月 14日~ 1053 年</p>	<p>「えいじょう」という場合もある。 後冷泉天皇が即位したため改元した。 「宋書」と「書経」の「宜しく宗廟を奉り、永く天祚を承くべし」がもとになっている。</p>	<p>前九年の役(1051年)</p>
<p>てんぎ 天喜 (後冷泉天皇)</p>	<p>1053 年1月 11日~ 1058 年</p>	<p>疫病が流行したため改元した。 「抱朴子」の「人主道あればすなわち嘉祥ならびいたる、これすなわち天喜なり」がもとになっている。 天喜とは、「おめでたいことが起こる日」という意味。</p>	<p>天喜の荘園整理令 (1055年) 平等院阿弥陀堂 (1053年)</p>
<p>こうへい 康平 (後冷泉天皇)</p>	<p>1058 年8月 29日~ 1065 年</p>	<p>平安京の中心にある天皇が即位式などの、大切なイベントを行う建物である「大極殿」が火事になってしまったため改元した。*京都にある法成寺がやはり火事で無くなってしまったことが理由という説もある。</p>	<p>更級日記</p>



		「漢書」の「文帝は寛恵にして温克、世の康平なるに遭う」がもとになっている。 康平とは、平和という意味。	
じりやく 治暦 (後冷泉天皇)	1065 年8月 2日~ 1069 年	日照りが続いて農作物の不作があり、さらに「三合」という厄年(悪いことが起きると言われる年のこと)だったため改元した。 「尚書正義」の「君子は暦を治るをもって時を明らかにする」が元になっている。	
えんきゅう 延久 ごさんじょう (後三条 天皇)	1069 年4月 13日~ 1074 年	後三条天皇が即位したため改元した。 「書経」の「謀りてこれを延久ならしめんと欲す」がもとになっている。	延久の しょうえんせいりれい 荘園整理令 (1069年)
じょうほう 承保 しらかわ (白河天 皇)	1074 年8月 23日~ 1077 年	「しょうほう」と読む場合もある。 白河天皇が即位したため改元した。 災害が起きたので改元したという説もある。 「書経」の「王命ず、われにつとめてなんじの文祖命を受くるの民と、なんじの光烈なる考武王の弘朕とを承保せんことを」がもとになっている。	
じょうりやく 承暦 (白河天皇)	1077 年11月 17日~ 1081 年	天然痘という病気が流行り、日照りが続いて農作物の不作が起こったため改元した。 「維城典訓」の「聖人は懿徳をもって永く暦をく」がもとになっている。 「暦を承く」とは、「王位を受け継ぐ」という意味。 改元の時には、犯罪を犯した人の刑罰が軽くされた。	
えいほう 永保 (白河天皇)	1081 年2月 10日~ 1084 年	辛酉の年(革命が起こると言われる年)だったので改元した。 「書経」の「これ曰く、万年に至って、これ王の子子孫孫永く民を保つことを欲す」がもとになっている。	ごさんねん えき 後三年の役 (1083年)
おうとく 応徳 (白河天皇)	1084 年2月 7日~ 1087 年	甲子の年(事件などが起こるといわれる年)だったので改元した。 「白虎通」の「陰陽和して万物序あり。休氣充塞す。ゆえに符瑞ならびいたる。皆徳に応じて至る。」が、もとになっている。	白河上皇の院政 (1086年)
かんじ 寛治 ほりかわ (堀河天 皇)	1087 年4月 7日~ 1095 年	堀河天皇が即位したため改元した。 「礼記」の「湯は寛をもって民を治め、その虐を除く」がもとになっている。	後三年の役が終わ る(1087年)



かほう 嘉保 (堀河天皇)	1095 年1月 29日~ 1097 年	てんねんとう 天然痘という病気が流行したため改元した。 しき よろこ たいへい やす 「史記」の「嘉 びて太 平に保んず」がもとになっている。 改元の時には、罪を犯した人の刑罰を軽くした。	永長地震(1096 年)
えいちよう 永長 (堀河天皇)	1097 年1月 9日~	11ヶ月しか使わなかった元号。 大地震が起きたため、改元した。 ごかんじよ しやくや こいねが 「後漢書」の「故に夙夜もって永長なることを庶幾う」がもとになっている。 改元の時には、犯罪を犯した人の刑罰を軽くした。	でんがく 都で田楽が流行
じょうとく 承德 (堀河天皇)	1097 年11月 21日~ 1099 年	また1097年に地震が起きたため、改元した。大風や洪水、 ^{すいせい} 彗星が現れたこと(不吉とされていた)が改元の理由だという説もある。 えききょう う 「易経」の「承くるに徳をもってするなり」がもとになっている。	永長の大田楽 永長地震(1096 年)
こうわ 康和 (堀河天皇)	1099 年8月 28日~ 1104 年	地震が発生したことと、疫病が流行ったため改元した。 「政論」の「四海康和し、天下楽を同じうす」がもとになっている。 改元の時には、一部の罪を犯した人の刑罰を軽くしたり、人々の税を軽くしたり、お年寄りにお祝いの品を与えたりした。	
ちようじ 長治 (堀河天皇)	1104 年2月 10日~ 1106 年	こうわ げっしょく 康和5年(1103年)の2月16日に月食が起こったため改元した。 しらかわほうおう きんしん 月食が起こったことを、白河法皇と法皇の近臣(法皇のそばで仕える人のこと)とで「天で異変が起こっている」と考えて改元したことが ちゆうゆうき 中右記に書かれている。 かんじよ きゆうあん せい ぎよう そびよう う 「漢書」の「久安の勢を建て、長治の業を成し、もって祖廟に承 りくしん ほう け、もって六親に奉ず」がもとになっている。 改元の時には、一部の罪を犯した人々の刑罰を軽くした。	
かじよう 嘉承 (堀河天皇)	1106 年4月 9日~ 1108 年	「かしよう」と読む場合もある。 ちようじ すいせい 長治3年(1106年)に彗星が出現したため改元した。彗星は、悪いこ とが起きる前触れと考えられていた。 まえば 「漢書」の「皇皇としておおいに明かなり…嘉して天の和を承く、これ その福を楽しむ」がもとになっている。	
てんにん 天仁 とば (鳥羽天皇)	1108 年8月 3日~ 1110 年	鳥羽天皇が即位したため改元した。 もんぜん 「文選」の「天は仁をおこし、地は富をおこし、人は法をおこす」がもとにな っている。	



<p>てんえい 天永 (鳥羽天皇)</p>	<p>1110 年7月 13日~ 1113 年</p>	<p>天仁3年(1110年)に^{すいせい}彗星が出現したため改元した。彗星は、悪いことが起きる^{まえぶ}前触れと考えられていた。 また、彗星が改元の理由なので、「天」の字が入っているものが良いと考えられた。 ^{しよきよう}「書経」の「王小民をひきいて天の^{えいめい}永命を受けんことを欲す」がもとになっている。</p>	
<p>えいきゆう 永久 (鳥羽天皇)</p>	<p>1113 年7月 13日~ 1118 年</p>	<p>^{はしか}麻疹が流行したためと、^{えんりやくじ}延暦寺と^{こうふくじ}興福寺で争いが起こったため改元した。 ^{しきよう}「詩経」の「それ不戦の計を設くるは、守御の固きなり。みな^{しゃしよく}社稷の臣なる永久の策なり」がもとになっている</p>	
<p>げんえい 元永 (鳥羽天皇)</p>	<p>1118 年4月 3日~ 1120 年</p>	<p>病気が流行ったり、災害が起きたため改元した。 確かなことは分かっていないが、^{えききよう}「易经」の「元永貞なれば、^{てい}咎なし」がもとになっているという説がある。</p>	
<p>ほうあん 保安 (鳥羽天皇)</p>	<p>1120 年4月 10日~ 1124 年</p>	<p>病気が流行ったり、災害が起きたため改元した。 確かなことは分かっていないが、^{かんじよ}「漢書」の「^{しゃしよく}社稷を保守し、^{こうし}後嗣を^{あんこ}安固す」がもとになっているという説がある。</p>	
<p>てんじ 天治 すとく (崇徳天皇)</p>	<p>1124 年4月 3日~ 1126 年</p>	<p>崇徳天皇が即位したため改元した。 ^{えきい}「易緯」^つ「天子は天を継ぎて物を治む」がもとになっている。</p>	
<p>だいじ 大治 (崇徳天皇)</p>	<p>1126 年1月 22日~ 1131 年</p>	<p>^{てんえんとう}天然痘が流行ったため改元した。 ^{かといさほ}「河図挺佐輔」の「^{こうてい}黄帝徳を修め義を立て、天下大いに治まる」</p>	
<p>てんじよう 天承 (崇徳天皇)</p>	<p>1131 年1月 29日~ 1132 年</p>	<p>^{ひで}日照りが続いて作物がとれないことが続いたり、洪水などが起きたため改元した。 ^{かんじよ}「漢書」の「天に奉じて親に承けて、朝に^{しん}臨み臣にうけて、物ごとに^{のぞ}節文あり、もって人倫を^{じんりん}あきらかにす」がもとになっている。</p>	
<p>ちようじよう 長承 (崇徳天皇)</p>	<p>1132 年8月 11日~ 1135 年</p>	<p>「ちようじよう」と読む場合もある。 伝染病が流行ったため改元した。他にも「火事が起きた」から、「説明がでないような不思議な事が起きた」のが原因という説もある。 ^{しき}「史記」の「^{こうし}後嗣業にしたがい、^{せいち}長く聖治を承く」がもとになっている。</p>	



ほうえん 保延 (崇徳天皇)	1135 年4月 27日~ 1141 年	伝染病が流行ったり、食べ物がなくてたくさんの人が亡くなったりしたため改元した。洪水が起きたのが原因という説もある。 「もんぜん しそん えんじゅ」の「 文選 」の「 実に至尊の御するところ、延寿を保ちて子孫によろし 」がもとになっている。	
えいじ 永治 (崇徳天皇)	1141 年7月 10日~ 1142 年	1141年が ^{しんゆう} 辛酉(革命が起きるといわれている年)だったため、改元した。 改元の時には、罪を犯した人の罰を軽くしたり、税を減らしたり、なくしたりした。 またお年寄りや僧や尼に穀物を与えた。 「てんろん」の「 天下の安きをみて千年にして永く治らん という」がもとになっている。	
こうじ 康治 このえ (近衛天皇)	1142 年4月 28日~ 1144 年	近衛天皇が即位したため改元した。 「そうじょ こう おさ」の「 宋書 」の「 康をもって道を治む 」がもとになっている	
てんよう 天養 (近衛天皇)	1144 年2月 23日~ 1145 年	1144年が ^{かつし} 甲子(革命が起きると言われている年)だったので、改元した。 「ごかんじょ やしな」の「 後漢書 」の「 いづくぞ天に応じ人を養い 」がもとになっている。	
きゅうあん 久安 (近衛天皇)	1145 年7月 22日~ 1151 年	^{すいせい} ハレー彗星が現れたため、改元した。(このころ、彗星は不吉なものと考えられていた) 「かんじょ きゅうあん ちょうじ はい」の「 漢書 」の「 久安の勢を建て、長治の輩を成す 」がもとになっている	
にんびょう 仁平 (近衛天皇)	1151 年1月 26日~ 1154 年	1151年に起きた洪水のため改元した。 「ごかんじょ にんびょう」の「 後漢書 」の「 奮すでに節を立て、治仁平を貴ぶ 」がもとになっている。	
きゅうじゅ 久寿 (近衛天皇)	1154 年10月 28日~ 1156 年	火事が起きたため改元した。 「ずいしょ もとい ほくしん ひさ じゅ なんざん」の「 隋書 」の「 基は北辰と同じくして久しく、寿は南山と共にして長し 」がもとになっている。	
ほうげん 保元 ごしらかわ (後白河天皇)	1156 年4月 27日~ 1159 年	後白河天皇が即位したため改元した。 「がんしかく ぼうりょ げんきつ」の「 願氏家訓 」の「 宜しく防慮しもって元吉を保つべし 」がもとになっている。	ほうげん 保元の乱 (1156年) ほうげんしんせい 保元新制が 出される(1156 年)
へいじ 平治 (二条天皇)	1159 年4月 20日~ 1160 年	二条天皇が即位したため改元した。 「しき はなは たい おさ」の「 史記 」の「 天下ここにおいて太だ平らぎ治まる 」がもとになっている。	平治の乱(1159 年)



えいりやく 永 暦 (二条天皇)	1160 年1月 10日~ 1161 年	へいじ 平治の乱が起こったため改元した。 ごかんじよ なが へ たいへい 「後漢書」の「永く代を暦て太平なり」がもとになっている。	へいし 平治の乱で平氏に 敗れた みなもとのよりと も源頼朝が いず 伊豆へ流される (1160年)
おうほう 応保 (二条天皇)	1161 年9月 4日~ 1163 年	てんねんとう 天然痘という病気が流行ったため改元した。 しよきよ じん おうほう やわ 「書経」の「殷の民を応保(和らげて安らかにするという意味)する なり」がもとになっている。	
ちようかん 長寛 (二条天皇)	1163 年3月 29日~ 1165 年	てんねんとう 天然痘という病気が流行ったため改元した。他にも、災害が起こったか らという説もある。 いじょうてんくん ひろ ほどこ ひろ 「維城典訓」の「これを長くしこれを寛くせば、その功を施すこと博 し」がもとになっている。	
えいまん 永万 (二条天皇)	1165 年6月 5日~ 1166 年	災害が起こったり、不思議なことが起こったため改元した。 てんねんとう 二条天皇が天然痘にかかってしまい、治るようにと改元したという説もあ る。 かんじよ えいまん 「漢書」の「永永万年たり(平和な世の中が永く続くという意味)」がも とになっている。	
仁安 ろくじよう (六条天 皇)	1166 年8月 27日~ 1169 年	「にんなん」と読む場合もある。 六条天皇が即位したため改元した。 もうしせいぎ かんじん まつりごと 「毛詩正義」の「その寛仁にして安静なる政を行い、もって天下を 定む」がもとになっている。	平清盛が太政大臣 になる(1167年)
かおう 嘉応 (高倉天 皇)	1169 年4月 8日~ 1171 年	高倉天皇が即位したため改元した。 かんじよ しんしゃくごほう いんぶ かおう 「漢書」の「神爵五鳳の間、天下殷富にしてしばしば嘉応あり」がも とになっている。	
しやうあん 承安 (高倉天皇)	1171 年4月 21日~ 1175 年	「じやうあん」と読む場合もある。天空に起こる変動(異常気象や、 にっしよく いんせき すいせい 日食、隕石や彗星などの変わったこと)があったことと、高倉天皇の 病気が治るようにと改元された。 しよきよ 「書経」の「王われに命じて来たり、なんじの文徳の祖を承け安んぜし む」がもとになっている。	
あんげん 安元 (高倉天皇)	1175 年7月 28日~ 1177 年	てんねんとう 天然痘という病気が流行ったため、改元した。 かんじよ げんげん やす 「漢書」の「民害を除いて元元を安んず」がもとになっている。	あんげん たいか 安元の大 火 (1177年)
じしやう 治承 (高倉天皇)	1177 年8月 4日~ 1181 年	安元の大 火により、大極殿(朝廷の正殿)が燃えてしまったので改元 した。 かと てんせい 「河図」の「治文をつつしみ、治天精を承く」がもとになっている。	



ようわ 養和 (安徳天皇)	1181 年7月 14日~ 1182 年	安徳天皇が即位したため改元した。 「 ^{ごかんじよ} 後漢書」の「 ^{めい やす} 幸いにも命を保んじ、 ^{そん} 神を存し和を養うを得たり」がもとになっている。	
じゅえい 寿永 (安徳天皇)	1182 年5月 27日~ 1184 年	食べ物がなくてたくさんの人が亡くなってしまったり、戦が起こったり、病気が流行ったりしたため改元した。 「 ^{さんごう やくどし} 三合」という厄年だったという説もある。 「 ^{しきょう ひき しょうこう まみ こう きょう びじゅ} 詩経」の「 ^{ひき} 率いて ^{しょうこう} 昭考に見え、 ^{こう} もって ^{きょう} 考しもって ^{びじゅ} 享す。もって眉寿をたすけ、永くここに之を保つ」がもとになっている。	
げんりやく 元暦 (安徳天皇) ごとば (後鳥羽天皇)	1184 年4月 16にち ~1185 年	後鳥羽天皇が即位したため改元した。 「 ^{しょうしよいこうれいよう} 尚書緯考靈曜」の「 ^{かいびやく こよみ はじ する} 天地開闢、暦を元め名を紀す」がもとになっている。	元暦の大地震 (1185年) だんのうら 壇ノ浦の戦い (1185年)

鎌倉時代

元号	期間	改元の理由と由来	主な出来事
ぶんじ 文治 ごとば (後鳥羽天皇)	1185年 8月14 日~ 1190年	「 ^{ひやくれんしょう} 百錬抄」には火災と地震が起きたため改元したとある。他にも「争いや乱が起きたため」とあるものも。 「文治」のほかに「 ^{けんきゅう} 建久」という案もあったが、後鳥羽天皇が「文治」が良いと考えたため選ばれた。 「 ^{らいき} 礼記」の「文王は文によって国を治めた」という一文が由来。 意味は「 ^{ぶんおう} 文王(古代中国の伝説になっている王のこと)は武力に頼らず、文化や学問によって国を治める」というもの。	しゅご じしん 守護・地頭が置 かれる (1185年)
けんきゅう 建久 (後鳥羽天皇)	1190年 4月11 日~1199 年	1190年が「 ^{さんごう やくどし} 三合」という厄年だったので改元した。(地震が起きたのが理由という説もある) 「 ^{さんごくし} 三国志」の「 ^{きゅうちやう けい} 国を安んじて民を利し、久長の計を建つ」がもとになっている。	みなもとのよりとも 源頼朝 が せいいたいしょうぐん 征夷大將軍 になり、 かまくらばくふ 鎌倉幕府が開 かれる(1192年)
しょうじ 正治 つちみかど (土御門天皇)	1199年 4月27 日~1201 年	土御門天皇が即位したため改元した。 「 ^{そうじ} 荘子」の「 ^{しょうこう たいふ しょじん} 天子、諸侯、大夫、庶人、この四者自ら正しくするは、治の美なり」がもとになっている。	
けんにん 建仁 (土御門天皇)	1201年 2月13 日~1204 年	1201年は「 ^{しんゆう} 辛酉(革命が起こるとされると言われる年)だったので、改元した。 「 ^{もんぜん} 文選」の「 ^{ち けん} 智をつくし賢につく者は、必ず ^{じんさく た} 仁策を建て、人をもとめ士を求むる者は必ず ^{はくせき た} 伯跡を樹つ」がもとになっている	



げんきゆう 元久 (土御門天皇)	1204年 2月20日 ～1206年	1204年は甲子(革命が起こるとされている年)だったので改元した。 「毛詩正義」の「文王国内に建元してより久し」がもとになっている	
けんえい 建永 (土御門天皇)	1206年 4月27日 ～1207年	麻疹という病気が流行ったため改元した。天然痘という病気だったという説もある。 「文選」の「こいねがわくは力を上国に合わせ、恵みを下民に流し、永世の業を建て、金石の功を流さんことを」がもとになっている。	
じょうげん 承元 (土御門天皇)	1207年 10月25日 ～1211年	1207年は「三合」という厄年だったので改元した。「天然痘」という病気が流行ったのが原因という説もある。 「通典」の「いにしえ祭るに首時を以ってし、薦むるに仲月を用い、近代相承、元日祥瑞を奏す」がもとになっている。	
けんりやく 建暦 じゅんたく (順徳天皇)	1211年 3月9日 ～1214年	順徳天皇が即位したため改元した。 「後漢書」「宋書」の「暦を建つるのものは、必ず先に元を立つ」がもとになっている。	ほうじょうき 方丈記(1212年)
けんぼう 建保 (順徳天皇)	1214年 12月6日 ～1219年	災害があったため改元した。地震が起きたからという説もある。 「書経」の「またこれ天丕も建てて有殷を保がいます」がもとになっている。	
じょうきゆう 承久 (順徳天皇)	1219年 4月12日 ～1222年	災害がおこったり、日照りが続いて作物がとれなくなってしまうたりしたためと、1219年が「三合」という厄年だったので改元した。 「詩緯」の「周は后稷より起こり、歴世相承ぐこと久し」がもとになっている。	じょうきゆう 承久の乱 (1221年)
じょうおう 貞応 ごほりかわ (後堀河天皇)	1222年 4月13日 ～1224年	後堀河天皇が即位したため改元した。 「易経」の「中孚にしてみてもって貞しきに利しければ、すなわち天に應ずるなり」がもとになっている。	
げんにん 元仁 (後堀河天皇)	1224年 11月20日 ～1225年	日照りが続いて作物がとれなくなってしまうたりしたため改元した。 「周易正義」の「元はすなわち仁なり」がもとになっている。	
かるく 嘉禄 (後堀河天皇)	1225年 4月20日 ～1228年	「天然痘」という病気が流行ったため改元した。 「博物志」の「陛下先帝の光耀を擣頭し、もって皇天の嘉禄を奉ず」がもとになっている。	



あんてい 安貞 (後堀河天皇)	1228年 12月10日 ~1229年	てんねんとう 「天然痘」という病気が流行ったため改元した。 えききょう てい きち 「易経」の「貞に安んずるの吉とは、地のかぎりなきに応ずるなり」がもとになっている。	
かんき 寛喜 (後堀河天皇)	1229年 3月5日 ~1232年	「かんぎ」と読む場合もある。 暴風がおきたために改元した。 食べ物がないで亡くなる人がたくさんいたのが原因という説もある。 ほくぎしよ じん おこ おこ 「北魏書」の「仁にして温良を興し、寛にして喜樂を興す」がもとになっている。	寛喜の大飢饉 (1230年)
じょうえい 貞永 (後堀河天皇)	1232年 4月2日 ~1233年	1232年に食べ物がなく、たくさんの人々が亡くなってしまふ「大飢饉」が起きたので改元した。 しゅうえきせいぎ えいてい 「周易正義」の「利は永貞にあり。永は長なり。貞は正なり」がもとになっている。	貞永式目(1232年)
てんぷく 天福 しじょう (四条天皇)	1233年 4月15日 ~1234年	「てんぷく」と読む場合もある。 四条天皇が即位したため改元した。 しよきょう まつりごとぜん 「書経」の「政善なれば天これを福す」がもとになっている。	
ぶんりやく 文暦 (四条天皇)	1234年 11月5日 ~1235年	ちか 天皇に近しい人が亡くなるが続いたため改元した。 地震が理由という説もある。 とうじょ てんもん れきすう 「唐書」の「天文、暦数を掌る」がもとになっている。	御鉢が噴火(文暦の大噴火)(1234年)
かてい 嘉禎 (四条天皇)	1235年 9月19日 ~1238年	地震が起きたため改元した。 ほくせいしよ かてい しょうめい 「北齊書」の「千祀をつみ、嘉禎を彰明す」がもとになっている。 嘉禎というのは、「良いことが起きる前触れ」という意味。	
りやくにん 暦仁 (四条天皇)	1238年 11月23日 ~1239年	災害が起きたため改元した。 ずいしよ こうめいこよみ きよ じんかいけん 「隋書」の「皇明暦を御し仁海県よりも深し」がもとになっている。	
えんおう 延応 (四条天皇)	1239年 2月7日 ~1240年	地震が起きたため改元した。 もんぜん しゅん すす かきよ 「文選」の「俊がいこれ延む、ぬかれて嘉挙に應ず」がもとになっている。	
にんじ 仁治 (四条天皇)	1240年 7月16日 ~1243年	「にんち」と読む場合もある。 日照りが続いて作物がとれなくなってしまったりしたため改元した。 しんとうじょ かんにん も おさ 「新唐書」の「寛仁を以って天下を治む」がもとになっている。	
かんげん 寛元 ごさが (後嵯峨天皇)	1243年 2月26日 ~1247年	後嵯峨天皇が即位したため改元した。 そうじょ かん げんげん 「宋書」の「五教寛にあれば、元元もって平らかなり」	



ほうじ 宝治 ごふかくさ (後深草天皇)	1248年 2月28日 ~1249年	後深草天皇が即位したため改元した。 しゅんじゅうはんろ 「春秋繁露」の「身を治むる者は精を積むをもって宝となし、国を治むる者は賢を積むもって道となす」がもとになっている。	
けんちよう 建長 (後深草天皇)	1249年 3月18日 ~1256年	平安京にある天皇の住んでいるお屋敷で火事起きたため改元した。 ごかんじよ さく 「後漢書」の「長久の策を建つ」がもとになっている。	
こうげん 康元 (後深草天皇)	1256年 10月5日 ~1257年	はしか 麻疹という病気が流行ったため改元した。 ずいしよ さかん 「隋書」の「康なるかな元首や、われに恵むにかぎり無し」がもとになっている。	
しょうか 正嘉 (後深草天皇)	1257年 3月14日 ~1259年	火事起きたため改元した。 かんじよ かきつ ひろ さか 「漢書」の「はじめて嘉吉を正して弘めてもって昌ゆ」がもとになっている。	正嘉の大地震 (1257年) だいききん 正嘉の大飢饉 (1257年)
しょうげん 正元 (後深草天皇)	1259年 3月26日 ~1260年	食べ物がなくてたくさんの人々が亡くなったり、病気が流行したため改元した。 しい ばんさい 「詩緯」の「一なること正元のごとく、万載相伝す」がもとになっている。	だいききん 正元の大飢饉 (1259年)
ぶんおう 文応 かめやま (龜山天皇)	1260年 4月13日 ~1261年	龜山天皇が即位したため改元した。 じゅんじゅうないじ はちせつ けんぶん 「春秋内事」の「八節を建分し文をもって氣に應ず」がもとになっている。	
こうちよう 弘長 (龜山天皇)	1261年 2月20日 ~1264年	1261年は辛酉(革命が起きるといわれている年)のため、改元した。 じょうがんせいよう りてい ひろ 「貞観政要」の「理定の規を聞き、もって長代の業を弘むることを思えば、万古より易らず、百慮帰を同じくす」がもとになっている。	
ぶんえい 文永 (龜山天皇)	1264年 2月28日 ~1275年	1264年が甲子(革命が起きるといわれている年)だったので改元した。 ごかんじよ ぶ す そしゅう こうぎよう 「後漢書」の「武を統べ文を興し、永く祖宗の洪業をおもい」がもとになっている。	文永の役(1274年)
けんじ 建治 ごうだ (後宇多天皇)	1275年 4月25日 ~1278年	後宇多天皇が即位したため改元した。 しゅうらい 「周礼」の「もって建国の学政を治む」がもとになっている。	
こうあん 弘安 (後宇多天皇)	1278年 2月29日 ~1288年	病気が流行したため改元した。 たいそうじつろく ひろ 「太宗実録」の「安民の道を弘む」がもとになっている。	弘安の役(1281年)



しょうおう 正 応 (伏見天皇)	1288年 4月28日 ～1293年	伏見天皇が即位したため改元した。 「詩経」の「徳正に利に応ず」がもとになっている。	鎌倉大地震 (1293年)
えいにん 永 仁 (伏見天皇)	1293年 8月5日 ～1299年	地震が起きたため改元した。 「晋書」の「永く仁風を載し、長く無外を撫す」がもとになっている。	永仁の 徳政令 (1297年)
しょうあん 正 安 ごふしみ (後伏見天皇)	1299年 4月25日 ～1302年	後伏見天皇が即位したため改元した。 「孔子家語」の「この五行はもって身を正しくし国を安んずるに足る」がもとになっている。	
乾元 ごにじょう (後二条天皇)	1302年 11月21日 ～1303年	後二条天皇が即位したため改元した。 「易经」の「大いなるかな乾元」がもとになっている。 乾元とは、「天の筋道(人として行うべき正しい道)」のこと。	
かげん 嘉 元 (後二条天皇)	1303年 8月5日 ～1307年	日照りが続いて作物が取れなくなったり、彗星が現れたりしたので改元した。この頃は、彗星は「不吉なことが起こる前触れ」と考えられていた。 「貞観政要」の「元良盛んなるを嘉して万国貞し」がもとになっている。	嘉元の乱(1305年)
とくじ 徳 治 (後二条天皇)	1307年 12月14日 ～1308年	災害が起きたため改元した。 「尚書正義」の「俊徳治能の士並びて官にあり」がもとになっている。	
えんきょう 延 慶 はなぞの (花園天皇)	1308年 10月9日 ～1311年	「えんけい」と読む場合もある。 花園天皇が即位したため改元した。 「後漢書」の「終わるに功名をもってし、慶を後に延べざるなし」がもとになっている。	
おうちょう 応 長 (花園天皇)	1311年 4月28日 ～1312年	病気が流行ったため、改元した。 「旧唐書」の「長曆の規に応じ、中月の度にのっとり」がもとになっている。	
しょうわ 正 和 (花園天皇)	1312年 3月20日 ～1317年	嵐が起きたり、日食や月食などが起こるなど、「いつもと変わったこと」が起こったため改元した。 「唐紀」の「皇帝朝を受け正和を奏す」がもとになっている。 正和は、曲の名前のこと。	



ぶんぼう 文保 (花園天皇)	1317年 2月3日 ~1319年	「ぶんほう」と読む場合もある。 地震が起きたため改元した。 りょうしょ きしゅう もと 「梁書」の「姫周文を基とし、久しく七百年を保つ」がもとになっている。	
げんおう 元応 ごだいご (後醍醐天皇)	1319年 4月28日 ~1321年	後醍醐天皇が即位したため改元した。 とうじょ れいげん こうさい 「唐書」の「黎元を康済するの応なり」がもとになっている。	
げんこう 元亨 (後醍醐天皇)	1321年 2月23日 ~1324年	1321年は辛酉の年(革命が起こると言われている年)だったため、改元した。 えききょう 「易経」の「これをもって元いに亨る」がもとになっている。	
しょうちゅう 正中 (後醍醐天皇)	1324年 12月9日 ~1326年	ひど ぼうふう 酷い暴風雨が起き、たくさんの方が犠牲になったため改元した。 えききょう しいわ りゅうとく しょうちゅう 「易経」の「子曰く、竜徳ありて正中なる者なり」がもとになっている。	しょうちゅう へん 正中の変 (1324年)
かりやく 嘉暦 (後醍醐天皇)	1326年 4月26日 ~1329年	こうずい 洪水でたくさんの方がなくなったり、大きな地震が起きたり、病気が流行ったりしたため改元した。 くとうじょ かしん ぞうち 「旧唐書」の「四序の嘉辰、歴代増置す」がもとになっている。	
げんとく 元徳 (後醍醐天皇)	1329年 8月29日 ~1331年	でんせんびょう 伝染病が流行ったため、改元した。 しゅうえきせいぎ 「周易正義」の「天の元徳始めて万物を生ずるをいう」がもとになっている。 とく そな ひんせい 「元徳」とは、大きな徳(その人の身に備わった品性のこと)という意味。 げんこう 後醍醐天皇は、1331年に「元徳」から「元弘」に改元したが、後醍醐天皇の出身である大覚寺統と対立していた持明院統の光厳天皇と鎌倉幕府がそれを認めず、持明院統と幕府では元徳の次は1332年のしょうきょう 「正慶」が使われることになる。	
げんこう 元弘 (後醍醐天皇)	1331年 8月9日 ~1334年	でんせんびょう 伝染病が流行ったため、改元した。 かせんげんきつ ゆう ひろ 「芸文類聚」の「嘉占元吉、無量の裕を弘む」がもとになっている。	元弘の変(1331年) 鎌倉幕府が減ぶ (1333年)



室町時代(南朝)

元号	期間	改元の理由と由来	主な出来事
けんむ 建武 (後醍醐天皇)	1334年 1月29日～ 1336年	鎌倉幕府を倒し、「これからは天皇中心の新しい政治を行う」ということを示すために後醍醐天皇が改元した。 (災害や、即位、革命を避けるためなどの理由でない改元はこれが始めてと言われている) 「建武」は、中国の後漢 ^{ごかん} で使われていた元号。 中国の皇帝「光武帝」 ^{こうぶてい} が王朝 ^{おうちよう} (王が治める国家ということ)を復活させたときの元号が「建武」だったので、後醍醐天皇は自分も天皇が治める国家を取り戻したいという意味を込めて建武にしたと言われている。	建武の新政
えんげん 延元 (後醍醐天皇)	1336年 2月29日～1340年	後醍醐天皇に反するようになった足利尊氏によって後醍醐天皇側の楠木正成を湊川の戦いで破るなど、後醍醐天皇の政治に不安が続いたので改元した。 急な改元だったので、反対意見が出たが、後醍醐天皇が反対を押し切った。 「梁書」の「聖徳の被う所、上は蒼蒼より、下は元元に延ぶ」がもとになっている。 足利尊氏は光明天皇を立て、これにより京都(光明天皇)の北朝と吉野(後醍醐天皇)の南朝が並立した。(南北朝時代)	湊川の戦い (1336年) 南北朝の並立 (1336年) けんむしきもく 建武式目 (1336年) むろまちはくふ、 室町幕府の 創設(1336年) 足利尊氏が せいいたいしやうぐ 征夷大將軍 になる(1338年)
こうこく 興国 ごむらかみ (後村上天皇)	1340年 4月28日～1347年	後村上天皇が即位したため改元した。 元号の出典は不明になっている。	
しょうへい 正平 (後村上天皇)	1347年 12月8日～1370年	改元の理由、元号の出典も不明。 (正平一統が理由ではないかという意見もある。正平一統とは、一時的に南朝と北朝の対立をやめて、南朝の元号である「正平」を統一して使うという約束のこと。結局、南朝が京都を攻めるなどしてしまったため約束は無効になった。)	正平一統(1351年)
けんとく 建徳 ちやうけい (長慶天皇)	1370年 ～1372年	改元した日付は不明。長慶天皇が即位したため改元した。 元号の出典は不明。	
ぶんちゆう 文中 (長慶天皇)	1372年 4月6日(～ 28日)～ 1375年	改元の理由は不明。 元号の出典も不明。	



てんじゅ 天 授 (長慶天皇)	1375年 6月2日 ごろ～ 1381年 ころ	山崩れが起きたため改元した。 元号の出典は不明。	
こうわ 弘 和 (長慶天皇)	1381年 ごろの6 月ごろ～ 1384年	1381年が辛酉(革命が起きると言われている年)だったため改元した。 元号の出典は不明。	
げんちゅう 元 中 ごかめやま (後亀山天皇)	1384年 ～1392 年	後亀山天皇が即位したため改元した。 室町幕府の3代将軍足利義満の働きで、後亀山天皇は北朝と話し合いをした。 三種の神器を北朝の後小松天皇に渡したことで、南朝と北朝は統一された。 元号は北朝の「明德」となった。	明徳の和約・南北朝の合一(1392年)

室町時代(北朝)

元号	期間	改元の理由と由来	主な出来事
けんむ 建 武 (後醍醐天皇)	1334年1月29日～ 1338年	鎌倉幕府を倒し、「これからは天皇中心の新しい政治を行う」ということを示すために後醍醐天皇が改元した。 (災害や、即位、革命を避けるためなどの理由でない改元はこれが始めてと言われている) 「建武」は、中国の後漢で使われていた元号。 中国の皇帝「光武帝」が王朝(王が治める国家ということ)を復活させたときの元号が「建武」だったので、後醍醐天皇は自分も天皇が治める国家を取り戻したいという意味を込めて建武にしたと言われている。 1336年に南北朝が並立すると、北朝と南朝それぞれ別の元号を定めるようになった。 南朝は1336年に「建武」から「延元」に改元したが、北朝は1338年まで「建武」を使い、1338年に「暦応」に改元した。	建武の新政
りゃくおう 暦 応 こうみょう (光明天皇)	1338年8月28日～ 1342年	光明天皇が即位したため改元した。 (光明天皇が即位したのは1336年) 「帝王代記」の「王者これをもって暦を占い、和に応じて生ず」がもとになっている。	



こうえい 康永 (光明天皇)	1342年4月27日～ 1345年	京都にある法勝寺の塔が火事になったこと、病気が流行ったため改元した。 「漢書」の「海内康平にして、永く国家を保つ」がもとになっている。	
じょうわ 貞和 (光明天皇)	1345年10月21日～1350年	彗星(この頃は不吉をあらわすものと考えられていた)が現れたり、病気が流行ったため改元した。 「芸文類聚」の「乾霊の休徳を体し、貞和の純精をうく」がもとになっている。	
かんおう 観応 すこう (崇光天皇)	1350年2月27日～ 1352年	「かんのう」と読む場合もある。 崇光天皇が即位したことによって改元した。 「荘子」の「虚通の理をもって、応物の数を観じ、而してなすこと無し」がもとになっている。 弟と対立した足利尊氏が南朝に協力を依頼し、1351年の正平一統により、北朝は南朝の元号である「正平」に一度統一した。また、同時に崇徳天皇は廃位(天皇ではなくなること)になった。 しかしすぐにまた南朝と北朝は対立することになり、1352年に「観応」が復活し、後光厳天皇が即位することになった。	しょうへい 正平一統
ぶんわ 文和 ごこうごん (後光厳天皇)	1352年9月27日～ 1356年	「ぶんな」とよむ場合もある。後光厳天皇が即位したため改元した。 「三国志」の「文内に和らぎ、武外に信ぶ」がもとになっている。	
えんぶん 延文 (後光厳天皇)	1356年3月28日～ 1361年	南朝と北朝の間で戦いがたくさん起こったため改元した。 「漢書」の文学・儒者数百人を延くがもとになっている。	
こうあん 康安 (後光厳天皇)	1361年3月29日～ 1362年	病気が流行ったり、あいかわらず南朝と北朝の間での戦いが続いたため改元した。 「史記正義」の「天下の衆事、みな康安を得れば、もって天下太平を致す」がもとになっている。	
じょうじ 貞治 (後光厳天皇)	1362年9月23日～ 1368年	あいかわらず南朝と北朝との間で戦いがつづき、さらに地震や津波、火事などが起きたため改元した。 「易経」の「武人の貞しきに利しとは、志治まるなり」がもとになっている。	
おうあん 応安 (後光厳天皇)	1368年2月18日～ 1375年	病気が流行ったり、災害などが起きたため改元した。 「毛詩正義」の「幸いに応に安定すべし」がもとになっている。	足利義満が征夷 大将軍になる (1368年)
えいわ 永和 ごえんゆう (後円融天皇)	1375年2月27日～ 1379年	後円融天皇が即位したため改元した。(即位は4年前) 「書経」の「詩は志を言い、歌は言を永くし、声は永きにより、律は声を和す」がもとになっている。	
こうりやく 康暦 (後円融天皇)	1379年3月22日～ 1381年	災害が起きたり、病気が流行ったり、戦がたくさん起こったりしたため改元した。 「唐書」の「成康の暦業を承く」がもとになっている。	



えいとく 永徳 (後円融天皇)	1381年2月24日～ 1384年	1381年は ^{しんゆう} 辛酉(革命が起きると言われている年)だったため改元した。 元号の由来は不明。	
しとく 至徳 ごこまつ (後小松天皇)	1384年2月27日～ 1387年	後小松天皇が即位したため改元した。 「孝経」の「先王に至徳要道有り、もって天下を順にす」がもとになっている。	
かけい 嘉慶 (後小松天皇)	1387年8月23日～ 1389年	「かきょう」と読む場合もある。 病気が流行ったため改元した。 もうしせいぎ ^{かけい} 「毛詩正義」の「 ^{ていしょう} 嘉慶まさには有らんとするに、 ^{あら} 禎祥まず来たりて現わる」がもとになっている。	
こうおう 康応 (後小松天皇)	1389年2月9日～ 1390年	朝廷の重要な役職の人や、位の高い僧が相次いで亡くなったため改元した。 ^{もんぜん} 「文選」の「国富み民康く、神応じさいわいいたり」がもとになっている。	
めいとく 明德 (後小松天皇)	1390年3月26日～ 1394年	災害が起きたり、戦が多く起こったりしたので改元した。 ^{らいき} 「礼記」の「大学の道は、明德を明らかにするにあり」がもとになっている。	南北朝の合一 (1392年)
おうえい 応永 (後小松天皇)	1394年7月5日～ 1428年	33年続いた元号で、明治以前まででは最も長く使われた元号。(明治は43年、昭和は62年、平成は30年) ^{ごえんゆう} 後円融上皇が亡くなってしまったので改元した。 ^{とうかいよう} 「唐会要」の「 ^{まさ} 久しく応にこれを称し、 ^{たも} 永く天下を有つべし」がもとになっている。	足利義満が金閣寺を建てる (1397年)
しょうちょう 正長 しょうこう (称光天皇)	1428年4月27日～ 1429年	称光天皇が即位したため改元した。 (実際に称光天皇が即位したのは16年前) 称光天皇の即位が理由としながら、実は「応永」が永く続きすぎたため改元したという考え方もある。 ^{らいきせいぎ} 「礼記正義」の「 ^{いぎさとく} 在位の君子、威儀差忒あらず、もってこの四方の国を ^{しょうちょう} 正長すべし」がもとになっている。	^{つちいっき} 正長の土一揆 (1428年)
えいきょう 永享 ごはなぞの (後花園天皇)	1429年9月5日～ 1441年	後花園天皇が即位したため改元した。 (室町幕府将軍に ^{あしかがよしり} 足利義教が就いたから改元したという考え方もある) ^{ごかんじょ} 「後漢書」の「 ^{ぎぎ} よく魏々の功を立てて子孫に伝え、 ^{むきゆう} 永く無窮の祚を ^そ 享く」がもとになっている。	永享の乱(1438年) 永享関東地震 (1433年) ゆうきかっせん 結城合戦 (1440年)
かきつ 嘉吉 (後花園天皇)	1441年2月17日～ 1444年	1441年は ^{しんゆう} 辛酉(革命が起きると言われている年)だったため改元した。 ^{えききょう} 「易经」の「 ^か 嘉にまことあり、 ^{きち} 吉とは、位正中なればなり」がもとになっている。	嘉吉の乱(1441年)



ぶんあん 文安 (後花園天皇)	1444年2月5日～ 1449年	「ぶんあん」と読む場合もある。 1444年が甲子(革命が起きると言われている年)だったため改元した。 「書経」の「文を尊び漢の社稷を安んず」がもとになっている。	
ほうとく 宝徳 (後花園天皇)	1449年7月28日～ 1452年	地震が起きたり、病気が流行ったため改元した。 「旧唐書」の「朕三徳を宝とす、いわく慈・儉・謙」がもとになっている。	
きょうとく 享徳 (後花園天皇)	1452年7月25日～ 1455年	三合という厄年だったためと、麻疹という病気が流行ったため改元した。 「書経」の「世世徳を享け、万邦式となす」がもとになっている。	
こうしょう 康正 (後花園天皇)	1455年7月25日～ 1457年	戦がたくさん起こったため改元した。 「書経」の「平康は正直」がもとになっている。	
ちようろく 長禄 (後花園天皇)	1457年9月28日～ 1461年	日照りが続いて作物が取れなくなってしまったため改元した。 「韓非子」の「その生を建つるや長く、禄を持するや久し」がもとになっている。	長禄・寛正の飢饉 (1459年～)
かんしょう 寛正 (後花園天皇)	1461年12月21日～1466年	日照りが続いて作物が取れなくなってしまったり、食べ物がなくたくさんの人々が亡くなってしまったりしたので改元した。 「孔子家語」の「外寛にして内正し」がもとになっている。	長禄・寛正の飢饉 (～1461年)
ぶんしょう 文正 ごつちみかど (後土御門天皇)	1466年2月28日～ 1467年	後土御門天皇が即位したため改元した。 「荀子」の「文学を積み、身行を正しくす」がもとになっている。	文正の政変 (1467年)
おうにん 応仁 (後土御門天皇)	1467年3月5日～ 1469年	1466年に室町幕府将軍足利義教の子である足利義視を暗殺するという計画(文正の政変)が起こり、兄の足利義政の指示で改元された。 「維城典訓」の「仁の物に感じ、物の仁に応ずるや」がもとになっている。	応仁の乱(1467年～)
ぶんめい 文明 (後土御門天皇)	1469年4月28日～ 1487年	応仁の乱が起こったため改元した。 「易経」の「文明にしてもって健、中正にして応ずるは、君子の正なり」がもとになっている。	やましろ山城のくにいっき 国一揆(1485年)
ちようきょう 長享 (後土御門天皇)	1487年7月20～ 1489年	火事が起きたり、病気が流行ったり、戦がたくさん起こったので改元した。 「文選」の「功を全うし、長くその福を享くるを得んことを喜ぶ」がもとになっている。	
えんとく 延徳 (後土御門天皇)	1489年8月21日～ 1492年	病気が流行ったため改元したと伝えられているが、実は室町幕府の足利義尚が亡くなってしまったのが理由とも言われている。 「孟子」の「道徳を開延す」がもとになっている。	足利義政が銀閣を建てる(1489年)



めいおう 明 応 (後土御門天皇)	1492年7月19日～1501年	病気が流行ったため改元した。 えききょう 「易 経」の「その徳は 剛 健にして文明、天に 応じて時に行う」がもとになっている。	明応地震(1498年)
ぶんき 文 亀 ごかしわばら (後 柏 原 天皇)	1501年2月29日～1504年	1501年は 辛 酉 (革命が起きると言われている年)だったため改元した。 じが 「爾雅」の「十 朋の 亀は、一に曰く神亀…五に曰く文亀」がもとになっている。	
えいしょう 永 正 (後柏原天皇)	1504年2月30日～1521年	1504年は 甲子 (革命が起きると言われている年)だったため改元した。 えきい 「易緯」の「永くその道を正し、みな 吉化を受く」がもとになっている。	永正地震(1520年)
だいえい 大 永 (後柏原天皇)	1521年8月23日～1528年	戦争がたくさん起こったため改元した。 つてん 「通典」の「その大なればすなわちもって業を永くす」がもとになっている。	
きょうろく 享 禄 ごなら (後奈良天皇)	1528年8月20日～1532年	戦争が多く起きたため、改元した。 えききょう 「易 経」の「天位において 天 禄 を享くるなり」がもとになっている。	
てんぶん 天 文 (後奈良天皇)	1532年7月29日～1555年	病気が流行ったため改元した。 しよきょう 「書 経」の「舜 天 文 を察し七政をひとしくす」がもとになっている。	鉄砲の伝来(1543年) キリスト教の伝来(1549年) かわなかじま 川 中 島 の戦い(1553年)
こうじ 弘 治 (後奈良天皇)	1558年10月23日～1558年	「こうぢ」と読む場合もある。 災害が起きたため改元したと言われている。 ほくせいしよ 「北 齊 書」の「ただ 宝 命 を承け、志して 治 体 を 弘 む」がもとになっている。	
えいろく 永 禄 おおぎまち (正親町天皇)	1558年2月28日～1570年	正親町天皇が即位したため改元した。 ぐんしよちよう 「群書治要」の「永く福 禄 を全うする者なり」がもとになっている。	おけはざま 桶 狭 間の戦い(1560年) おだのぶなが 織 田 信 長 が あしかがよしあき 足 利 義 昭 と京都へ入る(1568年)
げんき 元 亀 (正親町天皇)	1570年4月23日～1573年	戦争がたくさん起きたため改元した。 あしかがよしあき むろまちばくふ 足 利 義 昭 が 室 町 幕 府 将 軍 になっ た の が 理 由 と い う 説 も あ る 。 しきょう 「詩 経」の「元 亀 象 齒、大いに南金を 賂る」がもとになっている。	姉川の戦い(1570年) 織田信長による比叡山焼き討ち(1570年) 室町幕府の滅亡(1573年)



安土桃山時代

元号	期間	改元の理由と由来	主な出来事
てんしょう 天正 (正親町天皇)	1573年7月28日～ 1593年	戦争がたくさん起きたため改元した。 ろうし 「老子」の「清静は天下の正たり」がもとになっている。	ながしの 長篠の戦い (1575年) ほんのうじ 本能寺の変 (1582年) てんしょうけんおう 天正遣欧使節 (1582年) てんしょうじしん 天正地震 (1586年) かたながりれい 刀狩令 (1588年) 豊臣秀吉による全 国統一(1590 年)
ぶんろく 文禄 ごようぜい (後陽成天 皇)	1593年 12月8日 ～1596年	後陽成天皇が即位したため改元した。 「天正」が長く続きすぎたのが改元の理由という説もある。 つてん 「通典」の「すべて京の文武の官、毎歳禄を給わる」がもとになって いる。	えき 文禄の役

江戸時代

元号	期間	改元の理由と由来	主な出来事
けいちょう 慶長 (後陽成天 皇)	1596年10月27日～ 1615年	1596年に地震が起こったため改元した。 もうしちゅうそ ぶんおう 「毛詩注疏」の「文王功德深厚なり、ゆえに福慶延長す」がも とになっている。	慶長地震(1596 年) とよとみひでよし 豊臣秀吉 が亡くなる (1598年) せきがはら 関ヶ原の戦い (1600年) 徳川家康が せいいたいしょうく 征夷大將軍 になり、江戸幕府 を開く(1603 年) じん 大坂冬の陣 (1614年) 大阪夏の陣 (1615年)



<p>げんな 元和 ごみずのお (後水尾 天皇)</p>	<p>1615年7 月13日～ 1624年</p>	<p>「げんわ」と読む場合もある。 後水尾天皇が即位したため改元した。江戸幕府が豊臣氏を滅ぼしたこ とで改元するよう朝廷に求めたのが理由という説もある。 もとになった書物などはなく、唐<small>とう</small>で使われていた「元<small>げん</small>和<small>な</small>」をそのまま使っ た。</p>	<p>ぶけしよはつと 武家諸法度 (1615年) きんちゆうならびに 禁中並公家 (1615年) 徳川家康が亡く なる(1616年) げんなだいじゅんさ 元和大殉 (1622年)</p>
<p>かんえい 寛永 (後水尾天 皇)</p>	<p>1624年2 月30日～ 1645年</p>	<p>1624年は甲子<small>かつし</small>(革命があるとされている年)だったため改元した。 「詩経集注」の「寛<small>かん</small>は広なり、永<small>えい</small>は長なり」がもとになっている。</p>	<p>えぶみ 絵踏の開始 (1629年) かんえいおだわら 寛永小田原城 (1633年) さんきんこうたい 参勤交代 の開始(1635 年) かんえいつうほう 寛永通宝 (1636年) しまばらあまくさい 島原・天草一 (1637年) さこく 鎖国の開始 (1641年)</p>
<p>しょうほう 正保 ごこうみょう (後光明天 皇)</p>	<p>1645年12 月16日～ 1648年</p>	<p>後光明天皇が即位したため改元した。 「尚書正義」の「先正保衡は我が烈祖<small>れつそ</small>をたすけ、皇天<small>こうてん</small>にいたる」が もとになっている。</p>	
<p>けいあん 慶安 (後光明天 皇)</p>	<p>1648年2 月15日～ 1652年</p>	<p>どうして改元したかは分かっていないが、「正保」という言葉の発音が 「焼亡<small>しょうぼう</small>(焼けて亡くなる)」と似ているなど良くないイメージがあったか らという説もある。 「易経」の「東北には朋を喪<small>とも うしな</small>うとは、すなわち終りには慶<small>よるこび</small>有 なり。貞<small>てい</small>に案ずるの吉<small>きち</small>とは、地のかざりなきに応ずるなり」がもとになっ ている。</p>	<p>慶安の変(1651 年)</p>
<p>じょうおう 承応 (後光明天 皇)</p>	<p>1652年9 月18日～ 1655年</p>	<p>どうして改元したかは分かっていないが、江戸幕府の徳川家光<small>とくがわいえみつ</small>が 亡くなったことなどが原因で幕府が朝廷に改元を求めたのではないか という説もある。 「晋書」の「夏・殷運を承<small>しんじよ かいん つ</small>ぎ、周氏期<small>しゅうし</small>に<small>しゅうし</small>応ず」がもとになっている。</p>	<p>承応事件(1652 年)</p>
<p>めいれき 明暦 ごさい (後西天皇)</p>	<p>1655年4 月13日～ 1658年</p>	<p>「めいりやく」と読む場合もある。 後西天皇が即位したため改元した。 「漢書」の「大法九章、五紀暦法<small>れきほう</small>を明らかにす」がもとになっている。</p>	<p>たいか 明暦の大火 (1657年)</p>



まんじ 万治 (後西天皇)	1658年7月23日～ 1661年	だいきば かさい 大規模(スケールが大きいこと)な火災(明暦の大火)が起きたため、改元した。 しき しゅうみん 「史記」の「衆民すなわち定まり、万国治をなす」がもとになっている。	
かんぶん 寛文 (後西天皇)	1661年4月25日～ 1673年	こうきよ 1661年に京都にある皇居が火災で燃えてしまったため改元した。 じゅんし せつそうりょう かん 「荀子」の「節奏陵なれば文あり、民をやしなうこと寛なれば安し」がもとになっている。	寛文地震(1662年) シャクシャインの戦い(1669年)
えんぼう 延宝 れいげん (霊元天皇)	1673年9月21日～ 1681年	霊元天皇が即位したため改元した。 他にも火災が多くおきたとか、洪水が起きたから改元したという説もある。 ずいしょ ほうそ の びょう さかい 「隋書」の「宝祚を延ぶれば、渺として疆なし」がもとになっている。	えんぼうぼうそうお 延宝房総沖 (1677年)
てんな 天和 (霊元天皇)	1681年9月29日～ 1684年	「てんわ」と読む場合もある。1681年は辛酉(革命が起こると言われている年)だったため改元した。 ごかんじょ やす 「後漢書」の「天人は協和し、万国はみな寧んず」がもとになっている。	
じょうきょう 貞享 (霊元天皇)	1684年2月21日～ 1688年	1684年が甲子(革命が起きると言われている年)だったため改元した。 えききょう えいてい みかど まつ きち 「易経」の「永貞なれば吉。王もって帝を享る、吉。」がもとになっている。	
げんろく 元禄 ひがしやま (東山天皇)	1688年9月30日～ 1704年	東山天皇がを即位したため改元した。 もんぜん げんくん こんりゅう けんろく 「文選」の「元勳を建立し、もって顕禄に応ぜば、福の上なり。」がもとになっている。	元禄地震(1703年)
ほうえい 宝永 (東山天皇)	1704年3月13日～ 1711年	大きな地震(元禄地震)と江戸で大きな火事が起きたのを理由に改元した。 くとうじょ ほうそ きこうひび 「旧唐書」の「宝祚ただ永く、暉光日に新たなり」がもとになっている。	宝永金銀(1706年) 宝永地震(1707年) 宝永大噴火(1707年)
しょうとく 正徳 なかみかど (中御門天皇)	1711年4月25日～ 1716年	中御門天皇が即位したため改元した。 「尚書正義」の「正徳の者は自らその徳を正しくす」がもとになっている。	正徳金銀
きょうほう 享保 (中御門天皇)	1716年6月22日～ 1736年	江戸幕府の徳川家宣と、徳川家継が亡くなり、幕府が改元を朝廷にもとめたため改元した。 ほくしゅうしょ う 「北周書」の「ごの大命を享け、万国を保有す」がもとになっている。	ききん 享保の飢饉 (1732年) 享保の改革



げんぶん 元文 さくらまち (桜町天皇)	1736年4月28日～ 1741年	桜町天皇が即位したため改元した。 もんぜん はじ な 「文選」の「武は元基を創め、文は大命を集す」がもとになっている。	
かんぼう 寛保 (桜町天皇)	1741年2月27日～ 1744年	1741年は辛酉(革命が起きると言われている年)だったため改元した。 しんゆう 「国語」の「寛は本を保つ所以なり」がもとになっている。	寛保の洪水・高潮 (1742年) くじかたおさだめか 公事方御定 (1742年)
えんきょう 延享 (桜町天皇)	1744年2月21日～ 1748年	1744年は甲子(革命が起きると言われている年)だったため改元した。 かつし 「芸文類聚」の「聖主寿延び、祚を享くこと元吉なり」がもとになっている。	
かんえん 寛延 ももぞの (桃園天皇)	1748年7月12日	桃園天皇が即位したため改元した。 もんぜん かんゆう えいしゅん ひ 「文選」の「寛裕の路を開き、もって天下の英俊を延く」がもとになっている。	
ほうれき 宝暦 (桃園天皇)	1751年10月27日～ 1764年	「ほうりやく」と読む場合もある。 地震が起きたり、桜町上皇が亡くなってしまったり悪いことが続いたので改元した。 「貞観政要」の「恭しく宝暦を承け、つつしんで帝図をうけたまわるに及んで」がもとになっている。	
めいわ 明和 ごさくらまち (後桜町天皇)	1764年6月2日～ 1772年	後桜町天皇が即位したため改元した。 しよきょう ひやくしやう ばんぼう 「書経」の「百姓昭明にして、万邦を協和す」がもとになっている。	明和の大火 (1772年)
あんえい 安永 (後桃園天皇)	1772年11月16日～ 1781年	大火事(明和の大火)が起きたため改元した。 めいわ もんぜん じゅあん えいねい 「文選」の「寿安、永寧」がもとになっている。	かいたいしんしよ 解体新書 (1774年) だいふんか 安永大噴火 (1779年)
てんめい 天明 こうかく (光格天皇)	1781年4月2日～ 1789年	光格天皇が即位したため改元した。 しよきょう かえり 「書経」の「この天の明命を顧みる」がもとになっている。	ききん 天明の飢饉 天明の大火 (1788年)
かんせい 寛政 (光格天皇)	1789年1月25日～ 1801年	大火事(天明の大火)が起きたため改元した。 しゅんじゅうさしてん かん もう すく もう かん せい 「春秋左氏伝」の「寛もって猛を濟い、猛もって寛を濟う。政ここをもって和す」がもとになっている。	寛政の改革 (1787年～ 1793年) いかく 寛政異学の禁 (1790年) 寛政地震(1793年)



<p>きょうわ 享和 (光格天皇)</p>	<p>1801年2月5日～ 1804年</p>	<p>1801年は辛酉(革命が起きると言われている年)だったので改元した。 「もんぜん 文選」の「したが 天に 順いてその運を享け、人に応じてその義を和す」がもとになっている。</p>	
<p>ぶんか 文化 (光格天皇)</p>	<p>1804年2月11日～ 1818年</p>	<p>1804年は甲子(革命が起きると言われている年)だったので改元した。 「易经」の「天文を観てはもって事変を察し、人文を観てはもって天下を化成す」がもとになっている。</p>	<p>文化の大火</p>
<p>ぶんせい 文政 にんこう (仁孝天皇)</p>	<p>1818年4月22日～ 1831年</p>	<p>仁孝天皇が即位したため改元した。 「かんじよ 漢書」の「ごうしゆん 豪俊を選び文学を講じ、政事に けいさん 稽参して民の心を進めんと 祈む」がもとになっている。</p>	<p>日本地図(1821年) シーボルト事件(1828年)</p>
<p>てんぼう 天保 (仁孝天皇)</p>	<p>1831年12月10日～ 1845年</p>	<p>1831年に地震が起きたため改元した。 「しよきよう 書経」の「つつしんで天道を 崇び、永く天命を保て」がもとになっている。</p>	<p>天保の飢饉(1833年) 天保の改革 おしお 大塩の乱(1837年) ばんしゃ 獄(1839年)</p>
<p>こうか 弘化 (仁孝天皇)</p>	<p>1845年12月2日～ 1848年</p>	<p>江戸幕府のお城である、江戸城の ほんまる 本丸(お城の中心となる部分)で火事が起きたため改元した。 「しよきよう 書経」の「化を ひろめ、天地をつつしみ たく 亮く」がもとになっている。</p>	<p>ぜんこうじ 善光寺地震(1847年)</p>
<p>かえい 嘉永 こうめい (孝明天皇)</p>	<p>1848年2月28日～ 1855年</p>	<p>孝明天皇が即位したため改元した。 「そうしよ 宋書」の「ここに 皇いに多裕を享け、楽永く 央ること無きを 嘉す」がもとになっている。</p>	<p>らいこう ペリー来航(1853年) にちべいわしんじよ 日米和親(1854年)</p>



<p>あんせい 安政 (孝明天皇)</p>	<p>1855年11月27日～ 1860年</p>	<p>天皇の住む屋敷で火事が起きたため改元した。 また、ペリー来航のように、外国からやってきた船に人々が不安を感じていたというのも改元の理由。 「群書治要」の「庶人政に安んじ、然る後に君子位に安んず」がもとになっている。</p>	<p>安政の大地震 (1855年) 安政の大獄 (1858年) にちべいしゅうこう 日米修好 (1858年) さくらだもんがい 桜田門外 の変(1860年)</p>
<p>まんえん 万延 (孝明天皇)</p>	<p>1860年3月18日～ 1861年</p>	<p>江戸城が火事で燃えてしまったので改元した。 「後漢書」の「千億の子孫を豊かにし、万載を歴て永く延べん」がもとになっている。</p>	
<p>ぶんきゅう 文久 (孝明天皇)</p>	<p>1861年2月19日～ 1864年</p>	<p>1861年が辛酉(革命が起きると言われている年)だったため改元した。 「後漢書」の「文武並び用い、長久の計を成す」がもとになっている。</p>	<p>文久の改革 (1862年～) 生麦事件(1862年)</p>
<p>げんじ 元治 (孝明天皇)</p>	<p>1864年2月20日～ 1865年</p>	<p>1864年は甲子(革命が起きると言われている年)だったため改元した。 「易経」の「乾元の用九は、天下治るなり」がもとになっている。</p>	<p>いけだや 池田屋事件 (1864年) 禁門の変(1864年)</p>
<p>けいおう 慶応 (孝明天皇)</p>	<p>1865年4月7日～ 1868年</p>	<p>1864年に起きた禁門の変で、京都で激しい戦いが起こり、2万軒もの家が焼けてなくなってしまったりしたため、改元した。 「文選」の「慶雲応に輝くべし、皇階木に授けらる」がもとになっている。</p>	<p>さっちょうどうめい 薩長同盟 (1866年) たいせいほうかん 大政奉還 (1867年) ぼしんせんそう 戊辰戦争 (1868年)</p>



明治からは、「一世一元制(いっせいいちげんせい)」となり、1代の天皇に1つだけの元号を定めることになったよ。

【提案者】

岩倉具視(いわくらともみ)

【理由】

1. 改元するには、元号のそのものや、使われる字などについて たくさん議論する必要がある、時間がもったいないということ
2. 中国の清では、1代の天皇に1つの元号としていることを参考にした
3. 1代の天皇に1つの元号のほうが、国民にとっても分かりやすく、長く同じ元号を使うので、親しみをもちやすくなる。

明治

1868年9月8日～1912年

天皇:明治天皇(睦仁(むつひと))

改元の理由

明治天皇が即位したため改元。

由来

「易経」の一文

「聖人南面して天下を聴き、明に嚮いて治む」から。

「理想的な徳をもつ人は南の方を向いて※天下の人々の声をよく聴き、明るい方向に向かって世の中を治める」という意味。

※南を向くというのは、古代中国では天子(日本での天皇のイメージ)は南の方を向いて臣下と対面していたから。



明治政府の中心だった松平春嶽が2~3つの元号の案を出し、その中から天皇が「くじ引き」をして明治に決定した。

主な出来事

- 1869年 版籍奉還
- 1871年 廃藩置県
- 1874年 民選議員設立の建白書
- 1876年 日朝修好条規
- 1877年 西南戦争
- 1881年 国会開設の詔
自由党結成
- 1882年 立憲改進黨結成
- 1885年 内閣制度のはじまり
- 1889年 大日本帝国憲法
- 1890年 教育勅語
第1回目の帝国議会が開かれる
- 1894年 領事裁判権撤廃
日清戦争
- 1895年 下関条約
三国干渉
- 1902年 日英同盟
- 1904年 日露戦争
- 1905年 ポーツマス条約
- 1910年 韓国併合
- 1911年 関税自主権の回復



大正

1912年7月30日～1926年

天皇:大正天皇(嘉仁(よしひと))

改元の理由

1912年に明治天皇が崩御し、皇室典範によって大正天皇が即位したため。

由来

「易経」の一文「大いに亨りて以て正しきは天の道なり」から。「あらゆる物事が大いにうまくいき、正しく行われることが天の道理である」という意味。こは段落ブロックです。

当時首相をつとめていた西園寺公望が「大正」「天興」「興化」の3つの案を出し、その中から「大正」が選ばれた。

また、明治天皇から「天皇が亡くなると、その天皇の在位中の元号を追号(ついでう・亡くなった天皇に対して贈られる称号のこと)として贈る」ようになった。それまでは、その天皇の特徴にちなんだ言葉や、住んでいた院の名前などが付けられていた。

主な出来事

- 1914年 第一次世界大戦
- 1917年 米騒動
- シベリア出兵
- 1919年 国際連盟に常任理事国として加盟
- 1923年 関東大震災
- 1925年 普通選挙法



昭和

1926年12月25日～1989年
天皇:昭和天皇(裕仁(ひろひと))

改元の理由

1926年12月25日に大正天皇が崩御したため改元。

由来

「書経(しょきょう)」の一文
「百姓(ひやくせい)昭明にして、万邦(ばんぽう)を協和す」から。
「国民が明るく輝き、あらゆる国々が互いに調和する」という意味。

主な出来事

1931年 満州事変
1932年 五・一五事件
1933年 国際連盟脱退
1936年 二・二六事件
1937年 日中戦争
1940年 日独伊三国同盟
1941年 日ソ中立条約
太平洋戦争
1945年 広島原爆投下
長崎原爆投下
ポツダム宣言受諾(終戦)
1946年 日本国憲法公布
1951年 サンフランシスコ平和条約
日米安全保障条約



- 1956年 日ソ共同宣言
国際連合に加盟
- 1960年 日米新安全保障条約
- 1972年 沖縄が日本に復帰
日中国交正常化
- 1973年 石油危機
- 1978年 日中平和友好条約

平成

1989年1月8日～2019年4月30日
天皇:上皇明仁(あきひと)

改元の理由

1989年1月7日に昭和天皇が崩御(ほうぎょ)し、皇太子だった明仁親王(あきひとしんのう)が即位した。

皇位継承(こういけいしょう)をうけて、元号法(げんごうほう)に基づき改元。
法律によって改元されたのは日本史上はじめて。

小淵恵三(おぶちけいぞう)官房長官が新元号を公表した。

由来

「史記」の一文「内平かに外成る」

「書経」の一文「地平かに天成る」

「国の内外(中も外も)、天地とも平和になる」という意味。



東京大学名誉教授の山本達郎氏が提案した。

他にも「正化」「修文」の候補があった。

その中で「平成」が採用されたのは、「明治・大正・昭和」をアルファベットの頭文字で表したときに、「M・T・S」となるので、「正化」と「修文」では「S」がかぶってしまっ
て見分けづらい、という理由もあった。

主な出来事

- 1989年 消費税導入(3パーセント)
- 1995年 阪神・淡路大震災
- 2002年 日朝首脳会談(拉致被害者5名帰国)
- 2003年 自衛隊イラク派遣
- 2011年 東日本大震災

令和

4年9月15日

2019年5月1日～

天皇:今上(きんじょう)天皇(徳仁(なるひと)天皇)

改元の理由

2016年8月8日に当時の天皇陛下(明仁天皇)が譲位(天皇の位を譲ること)することを発表され、改元の準備がされた。

あらかじめ新天皇の即位と改元を2019年5月1日に行うと決め、新元号の発表もその1ヶ月前に行うことが発表された。

新元号を先に発表するのは、コンピューターや書類などの変更手続きの時間を確保するため。



菅義偉(すがよしひで)官房長官が新元号を公表した。

由来

「万葉集」の中の、梅花の歌三十二首 あわせて序より。

【原文】

時に、初春の令月にして、気淑く風和らぐ。梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫らす。こは段落ブロックです。文章をここに入力してください。

【意味】

時に、初春の正月の令き月(おめでたい月のこと)にして、気候は快く、風はおだやかだ。梅は鏡の前の「おしろい」のように白く花開いて、蘭は香り袋のように香っている。

「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という意味が込められている。

「万葉集」は、天皇や貴族はもちろん、庶民(一般の人のこと)の作品までおさめられた和歌集。初めて日本で書かれた書物から元号が選ばれた。

主な出来事

2019年10月	消費税10パーセント 沖縄県首里城火災
2020年4月	新型コロナウイルスによる緊急事態宣言
2021年1月	新型コロナウイルスによる2度目の緊急事態宣言



干支というのは、「十二支（じゅうにし）のこと」と思われがちだけど、実は十二支の他に「十干（じっかん）」という漢字があり、十干と十二支を合わせたものが干支なんだ。

【十干】

甲（こう）・乙（おつ）・丙（へい）・丁（てい）・戊（ぼ）・己（き）・庚（こう）・辛（しん）・壬（じん）・癸（き）

【十二支】

子（ね）・丑（うし）・寅（とら）・卯（う）・辰（たつ）・巳（み）・午（うま）・未（ひつじ）・申（さる）・酉（とり）・戌（いぬ）・亥（い）

組み合わせは全部で60通り。

その中でも甲+子の「甲子（かっし）」と、辛+酉の「辛酉（しんゆう）」の年にはそれぞれ「甲子革令」と辛酉革命」が起こり、朝廷が倒されてしまうと信じられてきていたんだ。

そのため、革命をさけるために甲子と辛酉の年には改元が行われていたよ。

